

ワーク
ショップ1
町の良いところを書き
出し、共通点を探して
みよう！



提案① 町の魅力をみんなに知ってもらおう！
『バスでめぐる 食べておいしい見て
楽しい 見どころいっぱいツアー』

バスツアーで観光客増加を目指し、来町者に町の良いところを発見してもらいます。農業体験では農家の声を聞き、農産物を使った商品開発に取り組みます。また、体験型の食めぐりツアーや史跡めぐりツアーを行います。

提案② 新しい道の駅をもっとよくしよう！
『国見町でつながる幸せ
道の駅国見 あつかしの郷』

道の駅が国見町の名所となるよう、ももたん FM と連携し、広報活動に力をいれます。環境にやさしい道の駅をめざし、オリジナルエコバックを作ります。また、子育て世代支援施設「ママカフェ」の名称を「つながるカフェ」に変更することを提案します（子育てはママだけでなく地域全体で行うものとするため）。

提案③ 今あるモノや場所をもっとよくしよう！
『元気いっぱい夢いっぱい笑顔いっぱい
あふれる国見町』

観月台文化センターを「夢文化センター」へ改良し、人と人とのふれあいの機会を増やします。町の魅力あるイベントやこれまでの歴史を紹介する年間行事カレンダーを作ります。また、子どもからお年寄りまで楽しめるスイーツマラソンとインドア派も楽しめる商店街謎解きオリエンテーリングを企画。

岩淵遺跡では縄文の生活を体験



道の駅のゆるキャラを考案



マラソンの給水所ではモモジュースを提供



国見小学校6年生が国語の授業「町の幸福論」コミュニケーションデザインを考える」で「まちづくり」について考えました。グループごとに分かれてワークショップを行い、国見町の未来について考え、意見を出し合いました。ワークショップには、域学連携協定を締結している桜の聖母短期大学の福島学履修生約60人が先生役として各グループに参加しました。

【8月31日】ワークショップ1回目
1回目のワークショップで子どもたちは、町の未来を考えるために「現在」を見つめ直す作業に取り組みました。1回目のワークショップのテーマを「再発見」として、子どもたちは付箋に国見町の良いところを書き出し、模造紙に貼り付けていきます。国見町の新鮮な農産物、おいしい食べ物、貴重な文化財、歴史あるお祭り、豊かな自然など子どもたちの思う町の良いところがたくさん書き出され、あつという間に大きな模造紙は埋め尽くされました。続いて、書き出されたたくさんの方の国見町の魅力から「つながり」探しを行います。国見町のことを詳しく知らない短大生に、子どもたちは一生懸命、町の魅力を説明し、短大生と一緒に書き出された良いところの共通点を探し出し、より良くなる組み合わせを探していきました。

【9月29日】ワークショップ2回目
2回目はグループごとにまとめた模造紙にキャッチコピーを付け、発表の練習

に取り組みました。短大生を前にグループごとに小学生が発表し、短大生が感想を伝えました。声の大きさや視線などの発表の仕方や模造紙に絵を追加した方がわかりやすくなるなど短大生からのたくさんの方のアドバイスを聞きながら練習を繰り返しました。

【10月15日】学習発表会で報告
学習発表会当日は、ワークショップで話し合った内容を基に「くにみっ子が描く かがやく未来の国見町」と題して、町の未来を輝かせるための3つの意見が提案されました。国見町の現状を分析し、町が抱える問題を解決するための改善策が発表されました。また、発表では提案内容を劇にして表現し、見ている人にわかりやすい工夫して発表しました。

このワークショップで、普段関わりの少ない短大生との交流を通して、多角的な考え方や議論する大切さを学び、子どもたちは大きく成長しました。ワークショップの無い日にも、子どもたちは自主的に資料集めに取り組んだり、調査を進め、町の将来について真剣に向き合い学びを深めました。

未来まちづくりワークショップの成果は11月26日に観月台文化センターで行われる「教育フォーラム」でも発表されます。ぜひ子どもたちの想いが込められた素晴らしい提案と大きく成長した姿をご覧ください。

ワーク
ショップ2
キャッチコピーを考え、
発表の練習をしよう！

おいしい
給食で交流

